

ラオスから考える「大切なもの」

所属	各務原市立各務原養護学校	実践者	大前 奈津香 (L)									
対象	高等部2年生	時間数	6時間									
場所	教室・音楽室	実践教科	自立活動									
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国に興味関心をもつ。 ・友達の大切さを感じ、自分の行動を振り返ることで、より良い友達関係を築く。 ・戦争について知り、平和について考える。 											
実践内容	回	プログラム	備考									
	1	①先生の行った国を当ててみよう! ★世界に国はいくつあるのだろうか? ・知ってる国を書いてみる ・国名を読み上げ→聞いたことがあるかないか										
	2	②ラオスについて知ろう …写真を見て考える ★日本とラオスの共通点やつながり …(空港建設支援、職業訓練、日本のアニメのDVD、ドラえものの歌、スポーツ、将来の夢など)	・ラオスで撮影した写真 ・ラオスで書いてもらった自分の夢									
	3	★相違点 …(お寺の形、病院の付添い、大切なものランキング)										
	4	③友達は大切? …ランキングから考える <大切なもの、楽しいときの統計(最上位)の比較> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>大切なもの</th> <th>楽しいときや幸せなとき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラオス</td> <td>家族</td> <td>友達と遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>日本(自校)</td> <td>CD、DVD、</td> <td>音楽を聴く</td> </tr> </tbody> </table> ★もし友達がいなかったら? ・どうなるか、どんな気持ちになるかを書く。 ・KJ法でまとめる(教員が行う) ★友達を大切にする3ヶ条をつくる		大切なもの	楽しいときや幸せなとき	ラオス	家族	友達と遊ぶ	日本(自校)	CD、DVD、	音楽を聴く	・「大切なもの」「楽しいとき幸せなとき」のアンケート結果 ・ポストイット
		大切なもの	楽しいときや幸せなとき									
	ラオス	家族	友達と遊ぶ									
日本(自校)	CD、DVD、	音楽を聴く										
5	④戦争を知ろう。平和について考えよう ★戦争を題材とした絵本とDVD鑑賞 ・特攻隊員が出撃前日、ピアノが弾きたいと小学校を訪ねてくる話「ピアノは知っている～月光の夏～」の朗読(抜粋)とDVD視聴(一部)	・ラオスの子は友達といると幸せだって。みんなは友達が大切じゃないの? ・ラオスも日本も戦争を経験している										
6	★戦後も続く戦争の爪痕 ・ラオスの不発弾の被害映像(UXO Lao提供)と日本の不発弾処理の現状 ・平和について思うことのプリント記入	・毛利 恒之 原作「ピアノは知っている」 ・映画「月光の夏」DVD ・UXO Lao 動画										
成果	・「もし友達がいなかったら…」を考えてみることは、友だちの大切さを感じたり、今までの関わり方を振り返ることにつながった。生徒からは「今までこんなふうに考えたことがなかった」という声もきかれ真剣に考えることができた。											
課題	・友達との関係作りにしても、平和教育にしても、繰り返しの指導が必要であるが時間の確保が難しい。											
備考												

[授業実践の詳細]

1 時限目「先生はどこ国に行ってきたでしょう？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 先生が行ってきた国を当ててもらおうが、その前に自分は何か国くらい知っているか、国を書き出してみる。
- ② 知っている国と、先生が行ってきたと思う国を一人ずつ発表する。(教員はホワイトボードに書き出していく)
- ③ 世界にはどのくらいの数の国があるのかを予想する。
- ④ 世界には195か国の国があることを聞き、自分たちが知っていた国はほんのわずかであることを知る。
- ⑤ 教員が読み上げた国について、聞いたことがあるかないかを言う。世界には自分の知らないたくさんの国が存在することを再度認識する。
- ⑥ みんなが書いた国の中に先生の行った国があるかないか答えを聞く。
- ⑦ ラオスの場所や中部国際空港からの所要時間等を知る。

この時限のねらい

世界には多くの国が存在し、自分たちが知っているのはほんの一部の国であることを感じる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 国の数の予想は、50や80など二桁の数であった。195もあることを聞くと「そんなにたくさんあるのっ！」とびっくりしていたが、イメージはついていないように見受けられた。
- ◇ 世界の国一覧より、1～100の国を読み上げ、知っていたら手を上げるという活動をしたが、自分で書くよりは多くの国に手が上がり、「そういえばそんな国もあった」というような声が聞かれた。自分で国を書くよりも、この学習の方が世界には多くの国があることの認識や、自分は知らない国がたくさんあることを認識できたように思う。
- ◇ 生徒の書いた国のなかにも、知っている国を挙手にも、ラオスは挙がらなかった。「全く聞いたことない」という声も聞かれた。

3 使用した教材

<教材1>世界の国一覧表

<教材2>パワーポイント



<教材3>海外研修で撮影したラオスの写真



2 時限目「タイトル ラオスについて知ろう① ～日本とのつながりや共通点～」

1 子どもの活動の流れ

- ① ラオスの写真(1 主食、2 市場の野菜、3 学校の授業中、4 職業訓練校、5 バレーボールの試合、6DVD販売店、7 大前がピアノを弾いている)を見て、日本と共通している事柄を探し答える。
- ② ラオスの子が「自分の夢」を書いてくれたものを見る。
- ③ 全く聞いたことのなかった国とでも、共通点がたくさんあることを知る。

この時限のねらい

自分が聞いたことがない国も、日本と関わりがあることや、日本と共通していることがあることがたくさんあることを知る。そこから世界の国を身近に感じ、興味関心をもつ。

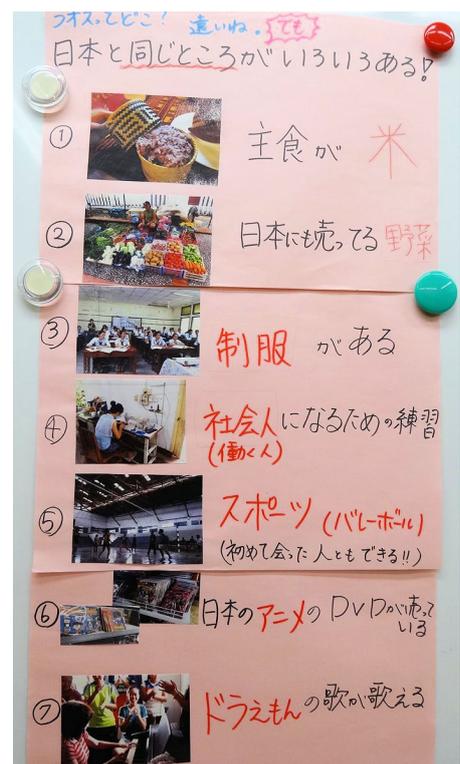
2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 7枚の写真を見せ、共通していることをポップコーン方式で言わせたところ、制服を着ていること、コナンのDVDが売っていること、ミシンをやっているから作業学習の授業がある、などの意見が挙がった。その後穴埋め方式で枠に言葉を入れてまとめてみたところ、Key となる言葉が出てきた。特にラオスでも日本でも、働く人になるためには訓練が必要で、一生懸命やる必要があることを話すと、現場実習後であったこともあり、大きくうなずきながら聞く様子が見られた。
- ◇ 日本のアニメが売られていたり、ラオスの子もドラえもんが歌えることは、とても印象深かったようで、後日もそのことについて話をしていた。
- ◇ ラオスの子が書いてくれた「自分の夢」は絵のものがわかりやすく、生徒たちにもよく伝わっていた。ラオスの子どもの夢をいくつか紹介し、日本でもラオスでも、みんなそれぞれ夢、やりたいことを持っているということが分かっていくと、生徒たちが優しい顔になっていった。言葉にはできないが、何らか心に響くものがあつたのではないかと思われる。

3 使用した教材

<教材4>海外研修で撮影したラオスの写真や動画(右)

<教材5>ラオスの子どもたちに書いてもらった「自分の夢」、高2のみんなの「自分の夢」(下)



3 時限目「タイトル ラオスを知ろう② ～相違点～」

1 子どもの活動の流れ

- ① ラオスの写真(お寺、病院の付添)を見て、日本との違いを探し答える。
- ② 「大切なものは何？」のアンケート結果から、ラオスの子と自分たちの違いを挙げる。
- ③ ラオスの子は友達を大切に思っているが、みんなには大切でないのか？を考えるため、もし友達がいなかったらどうなる？をポストイットに書く。(それを教員が関係図にまとめる)

この時限のねらい

ラオスと日本の相違点からラオスの良さを感じ、自分たちを見直す機会にする。

2 子どもの活動の成果・反応

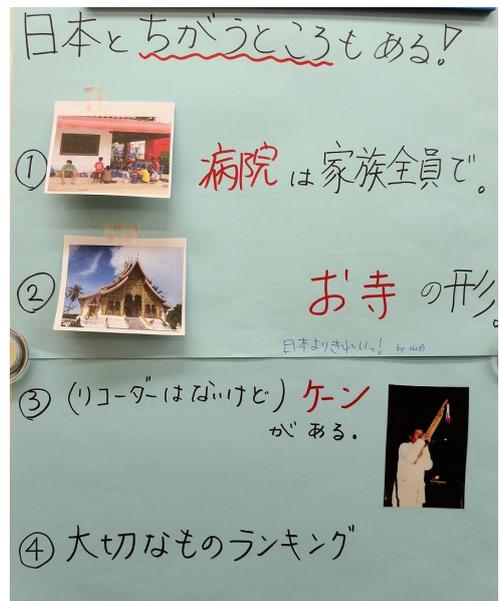
- ◇ 寺院は「お城」「超金持ちの人の家」などの意見が出た。「寺」であることを伝えると「日本のお寺よりきれい」「住みたい」という意見もあった。
- ◇ 病院は「公園」「休憩場所」などの意見が出た。病院であることを言うと「うそだ～」と言う声が聞かれた。家族を何より大切にするラオスは、家族の誰かが病気になったら家族全員で病院に行き、病院は患者より家族の方が多いことを話したが、なぜ学校や仕事を休んでまで一緒に行くのか？はイメージできないようであった。
- ◇ 大切なもののアンケート結果を見て、日本の子どもが大切だといっているものは「物」で、ラオスの子は「人」だということにすぐに気が付くことができた。
- ◇ 「もし友達がいなかったらどうなるか」を考えているとき、生徒たちの表情がだんだんと暗くなっていった。「友達のこと今までこんなふう考えたことはなかった。」という声も聞かれたように深刻にとらえることができていた。そばにいるのが当たり前であった友達を、違った角度から見ることができたように思う。

3 使用した教材

<教材6> 海外研修で撮影したラオスの写真(右)

<教材7> 大切なもの、幸せを感じる時のアンケート結果(ラオスの子どもたちと、当校2年生の生徒)(左)

あなたの大切なものは何ですか？		幸せを感じる時・楽しいと思うときは？	
ラオスの子どもたち	高2のみんな	ラオスの子どもたち	高2のみんな
家族	家族	友達と遊びに行くとき	友達と遊ぶ・話すとき
家族	家族と友達	友達と一緒にいるとき	友達と遊ぶとき
家族	家族と友達	友達と遊ぶとき	友達としゃべっている・音楽をきくとき
家族	命	友達と一緒にいるとき	自然の中にいるとき
家族	命	友達といるとき・料理	音楽をきいているとき
家族	心	友達といるとき	音楽をきいているとき
家族	音楽	友達といるとき	音楽をきいているとき
家族	CD	友達や家族といるとき	音楽をきく・楽器をひくとき
家族と友達	CD・DVD	学校に行くとき	音楽をきく・アニメを見るとき
家族と友達	ゲーム	家族や親せきといるとき	音楽をきく・本を読む・お菓子を食べる
家族と勉強	嵐の本	音楽をきくとき	ゲームをしているとき
勉強	アニメグッズ	アニメを見るとき	アニメをみる・スポーツをしているとき
食べ物	野球	テレビを見るとき	パッチングをしているとき



4 時限目「友達を大切に作る3ヶ条を作ろう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 前時に一人ひとりが書いた「もし友達がいなかったら・・・」を振り返り、関係図を見て、友達がいないということは、自分の生活がどうなることなのかを感じる。
- ② 普段の自分の友達への関わり方を振り返る。
- ③ 友だちを大切にするためにしたいこと、しなくてはならないことを2点考える。
- ④ もし、それができなかつたときにはどうするかを1点考える。
- ⑤ それらを合わせ、友達にできること3ヶ条を作り、一人ずつ決意表明をする。

この時限のねらい

学校生活で日々衝突を繰り返す生徒たちが友達の大切さを認識し、自分の行動を見直すきっかけとする。

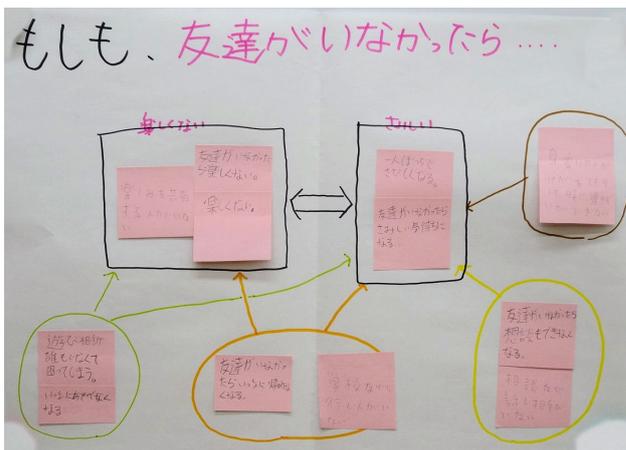
2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 友達とのいさかいの内容や、なぜそれが起こってしまったのかななどを、自分なりに振り返ることができていた。自分のくせや、直した方が良い部分までとらえられている生徒もいた。分かってはいるのだけれどやってしまうと、いう部分もあるため、もしできなかつたときはどうするかも考え、その都度自分の行動を振り返るような支援を今後も行っていきたい。

3 使用した教材

<教材8> もしも友達がいなかったらを書いたポストイットとそれをまとめた関係図(左)

<教材9> 友達に私ができること3ヶ条のプリント(右)



深く考えたことなかったけど・・・
いつもそばにいたことが当たり前だったけど・・・

もし友達がなくなったらとってもさみしい。すごく困る。

友達ってとても大事だね！

**そんな友達に
私ができること<3か条>**

友達をなぐさめる。

友達におこらない。

もし、おこってしまったら素直にあやまる。

5 時限目「戦争を知ろう、平和について考えよう①」

1 子どもの活動の流れ

- ① 特攻隊の説明を聞く。
- ② 特攻隊員が出撃前日、ピアノが弾きたいと小学校を訪ねてくる実話「ピアノは知っている ～月光の夏～」の朗読(抜粋)を聞く
- ③ 映画「月光の夏」(一部)を鑑賞する
- ④ もし、あなたが明日絶対死ぬとしたら・・・、もしあなたが特攻に行かなくてはならなかったら・・・を考える(特攻隊員の気持ちの理解につなげる)

この時限のねらい

- ・戦争はゲームの中の話ではなく、私たちの暮らす日本に実際にあった出来事であることを認識する。
- ・戦争の悲惨さを知り、二度と繰り返してはならないことを感じる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 戦争についての知識は、特攻隊を詳しく知っている生徒から、兵隊として戦地に行っていたのが、一般の男性たちであったことを知らない生徒までとても幅広かった。個々の理解度の問題もあるが、今までに平和教育を受けてきた度合いにも大きな差があったように感じた。

3 使用した教材

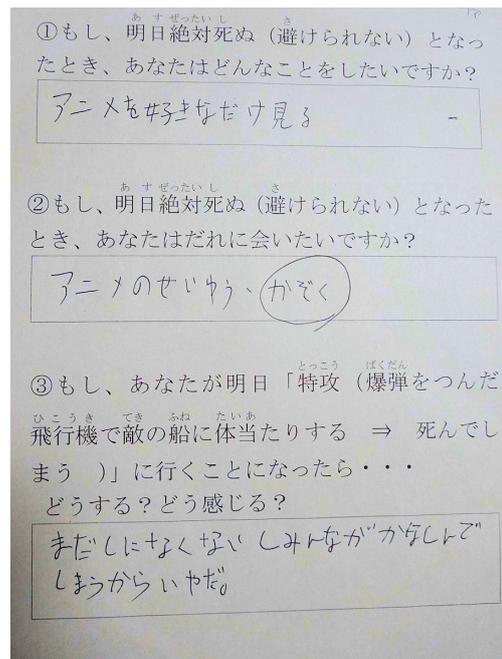
<教材10>絵本「ピアノは知っている～月光の夏～」(左)

毛利恒之 原作／ 山本静護 絵 2004年 自由国民社

<教材11>映画「月光の夏」DVD

神山征二郎 監督／毛利恒之 脚本 2006年 ポニーキャニオン(映画公開は1993年)

<教材12>もしあなたが・・・のプリント(右)



6

時限目「戦争を知ろう、平和について考えよう②」

1 子どもの活動の流れ

- ① 映画「月光の夏」(一部)を再度鑑賞し、特攻の悲しさ、戦争の悲惨さを認識する。
- ② 戦争が終わったら、すぐに平和になるか?を考える
 - 1) (説明無で)UXO Laoの不発弾についての動画を見る
 - 2)どんな場面なのかを予想した後、教員の説明付の動画を再度見る。
 - 3)ある国の不発弾処理の写真を見て、これはどこの国なのかを予想する
 - 4)日本の写真であること、来年に行く「沖縄」で特に多く不発弾が見つまっていること、住宅地や生活道路の工事中に見つかることが多く、今現在も多くの人の生活に影響を与えていることを知る。
- ③ 「平和について思うこと」のプリント記入

この時限のねらい

ラオスと日本の共通の課題として不発弾問題があることを知る。
戦争は、その最中だけでなく、終わってからも悲劇が続くことを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前回の授業で「自分は明日死ぬと分かっているときに最後にやりたいこと」や「もしあなた特攻に行くとしたら」を考えた後、映画のDVDを見たことで、一度目に見たときよりも状況を理解できたり、特攻隊員の気持ちを理解しようとしながら鑑賞したりすることができた。
- ◇ ラオスの不発弾の映像を見た感想は、「ラオスは大変」「ラオスはかわいそう」であった。その後ある国の不発弾処理の様子の写真3枚を見せ、どこの国かを考えさせたところ「日本でないことは確かだな」という生徒がいた。それをきいてうなずく生徒もいた。しかし、次に日本語の映っている処理の写真を見せ、実は日本であることを知ったとき、「うそだろっ!」という声が聞かれた。個々により理解度はまちまちであったが、戦争は自分に関係ないものではなく、自分たちにも関わっていること、戦争はつらい思いをたくさんするものであることをその子なりに感じてくれたように思う。

考えてみよう!

70年前、日本には戦争があった。じっさいにあった。
世界には、今でも、爆弾におびえながらくらしている子どもたちもいる。
平和って当たり前じゃない

【平和や戦争について思うこと】

戦争でたくさんの方がなくなりました。思っても心が悲しいです。
戦争はやりたくないからやるわけでもないと思います。

3 使用した教材

<教材13>UXO Lao提供 不発弾の動画

<教材14>日本国内の不発弾処理の画像(インターネットで検索)

<教材15>「平和や戦争について思うこと」のプリント